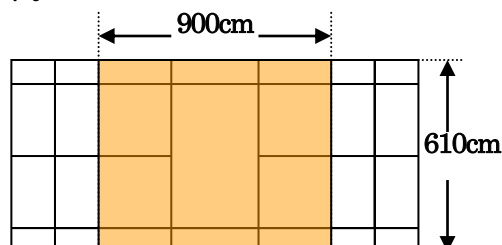


少年少女ミニバレー大会ルール

R7.10

1. 施設と用具

バドミントン用コート・ネット・ポールを使用し、コートの広さはサイドライン 900cm×エンドライン 610cm、ネットの高さは 155cm とします。



2. ボール

ボールは、ミニバレー専用ボールを使用します。

3. チームの構成

チームは最大 6 名のプレーヤーと 1 名の監督で構成し、ゲームは 1 チーム 4 名のプレーヤーで行います。

* 監督

(チーム内に監督を登録する事ができます。ただし登録してもしなくても構わない)

- (1) 監督はチームの^{こうい}行為や^{げんどう}言動に責任をもつ
- (2) 監督は、プレー中タイムアウトやメンバーチェンジを副審に告げて行う事ができる。
- (3) 監督はタイムアウト中のみチームに対してアドバイスを与え、アドバイスはコートの外から行い、コートの中には入れません。
- (4) 監督は複数チームの兼任ができます。
- (5) 監督は 18 歳以上の保護者等です。

4. ゲーム 全日本ミニバレーオフィシャルルールに準ずる。一部大会特別ルール採用

今大会、予選は 1 セット 11 点先取の 3 セットマッチ、ラリーポイント制で行い
2 セット先取したチームを勝ちとします。

10 対 10 になった場合も 11 点を先取したチームを勝ちとします。

決勝トーナメントにつきましては、予選と同じ方法となります。

決勝戦のみサーブ権のあるチームに得点が入る方式で行います。

ただし、3 セット目はラリーポイント制となります。

(1) プレーヤーの位置

プレー開始時のプレーヤーの位置は、前衛左、前衛右、後衛左、後衛右とし、サーブが打たれるまでこのポジションを崩してはなりません。

- (2) 2 セット目及び 3 セット目の開始前に、主審に告げてシフト・(メンバー) を組みなおすことができます。

- (3) 両チームのキャプテンは主審の指示にしたがって、トスによりサーブ権かコート選択権のいずれかを決めます。

- (1) サーブはサイドラインの延長線内でエンドラインの後方から 1 本だけ打つことができます

サーブ権が継続している場合同一プレーヤーが続けて行います。

- (2) サーブ権を得たチームはローテーション後、後衛右に位置したプレーヤーがサーブを行います。
- (3) ボールを相手コートに返すため、最大3回までプレーすることができます。
- (4) ボールは、手または腰から上であればどこでもプレーすることが可能です。
- (5) チームはボールがデットの時、各セットごとに2回までタイムアウトをとることができます
1回のタイムアウトの時間は、30秒以内とします。
- (6) ゲーム中のプレーヤーの交代は、ボールがデットの時副審に告げて行います。登録されたプレーヤーであれば何回でも交代することができます。ただし、サーブのみ行う交代はできません。

5. 反則

- (1) オーバータイムス
相手コートにボールを打ち返すための、プレー回数が3回を超えた場合。
- (2) オーバーネット
相手コートにあるボールに、ネットを越えてふれた場合。
- (3) タッチネット
インプレー中に、プレーヤーの身体の一部または衣服がネットにふれた場合。
- (4) ドリブル
1度ボールにふれたプレーヤーが、続けてボールにふれた場合。
ただし、ボールがネットにふれた場合は再び同じプレーヤーがプレーできます。
- (5) ホールディング
ボールをすくいあげたり、つかんだり、運んだりした場合。
- (6) バイオレーション
サーブされたボールが、完全にネットを通過しないうちにレシーバー側がボールにふれた場合

* サーブに対してダイレクトでアタック・ブロックすることは可能ですが、ボールが完全にネットを通過してからでないと反則になります。
- (7) アウトオブバウンズ
サーブしたボールが、ネットにふれたり、コート外に落ちた場合。
また、ボールがネット上を通過しなかった場合。
身体の一部が隣のコートまたはとなりのコートのサイドライン想像延長線上に入った場合
- (8) アウトオブポジション
サーブがうたれたとき、プレーヤーの前後左右の位置関係が違っていた場合
- (9) フットフォールト
サーブを打つときラインを踏んだり、踏み越したばあい